

# まほろばだより

2020  
March  
vol.32

～ Center for Diversity and Inclusion ～

第32号

## ● Contents ●

- ☑ Report1 第9回女性研究者学術研究奨励賞
- ☑ Report2 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞
- ☑ Report3 FD・SD講演会
- ☑ Report4 ハラスメント防止研修
- ☑ Report5 研究支援員配置制度
- ☑ Information1 講演会テーマの募集
- ☑ Information2 ハラスメント関連図書・DVDの貸出
- ☑ Information3 女性研究者の受賞・発表情報

Report

1

## 第9回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

奈良県立医科大学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。3月に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、第9回女性研究者学術研究奨励賞は病理診断学講座の内山智子助教が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。授賞式および受賞者による記念講演は奈良医学会総会に先立って中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催予定です。

【受賞者】 病理診断学講座 助教 内山 智子氏

【研究テーマ】 睡眠時無呼吸症候群の  
インスリン抵抗性発現の分子機構の解明

Report

2

## 眼科学講座 西 智講師が国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました

ソロプチミスト日本財団では、様々な分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の活躍への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、女性研究者・医師支援センターからの推薦により、本学眼科学講座の西智講師が「小児の弱視眼の網膜、脈絡膜の構造」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました。

国際ソロプチミスト奈良—あすかの田中礼子会長からは、子どもの大切な眼を守る社会的意義の高い研究であるとの評価をいただきました。女性研究者・医師支援センターでは、今後も優秀な女性研究者の活躍を応援していきたいと思っております。



2月6日(木)に教育開発センター、人事課と共催でFD・SD講演会を開催し、57名の教職員の参加がありました。講師に奈良県福祉医療部こども・女性局 女性活躍推進課の戸毛由樹子課長をお招きし、奈良県の男女共同参画の現状と課題解決に向けた取組についてご講演いただきました。

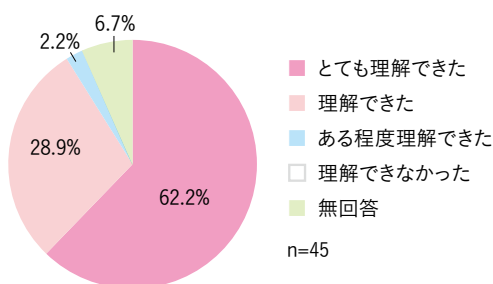
奈良県の大学進学率は女性が全国6位、男性が10位と高く、夫婦で子供の大学教育費用を心配する等、教育熱心な県であることがデータで示されました。一方、「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」といった**固定的性別役割分担意識に賛成の割合が全国1位**と高く、**専業主婦率も全国1位**という結果でした。データから見てきたものは、賃金労働以外の労働や役割に多くの時間を費やす奈良県の女性の姿でした。講演会後のアンケートでは、講演内容を「とても理解できた」と回答された方が過半数を占め、今後、ダイバーシティ推進に関する講演会に「参加したい」と回答された方が90%を超えていました。(図1)。参加者から「楽しく男女共同参画について勉強できました」「奈良県の状況がよく理解できました」といった感想が寄せられました。

女性研究者・医師支援センターは、教育開発センターと協力して医学科学生のキャリア教育を担当しています。長い年月をかけて積み上げる専門職としてのキャリア形成と職場以外の家庭や地域における労働の在り方について、今後も皆さまと一緒に考えていきたいと思います。

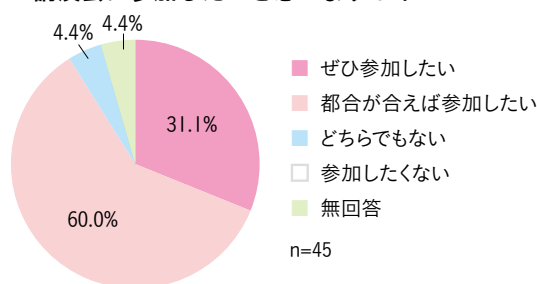


図1 講演会後のアンケート結果

①講演内容はいかがでしたか？



②今後もダイバーシティ推進に関する講演会に参加したいと思いますか？



Information

## 今後ダイバーシティ推進に関する講演会で取り上げてほしいテーマを募集します

女性研究者・医師支援センターでは、多様な人材が生き生きと活躍できる職場づくりを目指して、ダイバーシティ推進に関する講演会を開催しています。

過去に取り上げたテーマは下記の通りです。今後、ダイバーシティ推進に関する講演会で取り上げてほしいテーマがございましたら、当センターまでぜひご連絡ください。

- H27年度 医療専門職とジェンダー～生涯キャリアの観点から～
- H28年度 大学の使命と男女共同参画
- H29年度 LGBT/SOGIE から考える多様性：大学や組織におけるダイバーシティ&インクルージョン
- H30年度 障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応

## ハラスメント防止研修を実施しました

女性研究者・医師支援センターでは、平成23年度から教職員を対象としたハラスメント防止研修を毎年開催しています。本年度は、1年次臨床研修医(医科・歯科)60名を対象に、古家仁病院長が2月5日(水)に主催されたステップアップ研修の中で、臨床研修センターの教職員のご協力のもとハラスメント防止研修を行いました。

平成26年度に実施した奈良県立医科大学「ワークライフバランス推進のためのアンケート調査結果報告書」では、臨床研修医の44.2%がハラスメントを見聞きした経験があると回答し、臨床研修医の25.0%、4人に1人がハラスメントを受けていると感じた経験があると答えています。この数字は、本学で勤務する医師の中では最も高い数字となっています。臨床研修医には指導とパワーハラスメントの違い等、ハラスメントに関する理解を深め、ハラスメントの被害者にも加害者にもならないための情報提供が必要と考えます。

当日は女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーが講師を務め、1時間の参加型研修を実施しました。臨床研修医は、ハラスメント(パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント)危険度を自己診断し、ハラスメントを生まない思考法を学びました。また、須崎講師が作成したケーススタディを用いて臨床研修医がロールプレイを行い、ハラスメント防止に役立つ言動を参加者全員で考えました。参加者が今回の研修を生かして、将来それぞれの職場で働きやすい環境を作っていくことを期待しています。



### Information

## 2

## ハラスメント防止研修および、ハラスメント関連のDVDや書籍の貸し出しを希望される部署はお問合せください

女性研究者・医師支援センターでは、希望のある部署を対象に、平成29年度からは部署別のハラスメント防止研修会を開催しています。大学・附属病院の全部署が対象です。それぞれの部署が抱える個別の課題やニーズに沿った受講者参加型の研修会を実施できるように、オリジナルのケーススタディやシナリオ作成もお手伝いします。当センターでは、相談業務に加えて、教職員の皆さまが自分たちで課題を解決するための支援も行っています。希望される部署がありましたらご相談ください。

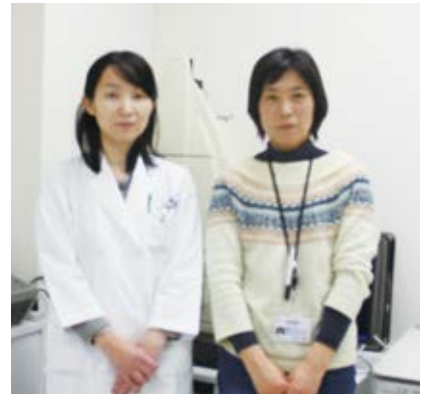
また、ハラスメント関連の書籍やセクシャルハラスメントとマタニティハラスメントに特化したDVDの貸し出しも行っています。各部署での勉強会等で使用を希望される際には、当センターまでご連絡ください。



ハラスメント関連の貸出図書、DVDの一例

私は、平成30年4月から研究支援員配置制度を2年間利用させていただきました。制度利用前は、「新規分子標的薬による皮膚障害の発症メカニズムの解明」というテーマで研究を行っていましたが、診療、学生教育等の日々の業務をこなしながら4歳の子育て、さらに第2子も妊娠中で、体力的に研究を続けるのが厳しい状況でした。そんな中、当教室の浅田秀夫教授から研究支援員配置制度の利用をすすめていただき、利用申請をいたしました。産休を控えての申請とのこともあり、マネージャーの須崎康恵先生からは育児休業中の制度利用がかえって子育ての負担にならないかとのご配慮もいただき、大変親身になってご相談にのっていただいたことを今でも深く感謝しております。

研究支援員配置制度を利用させていただいた結果、産休・育児休業中も負担のない範囲で支援員の方とメールなどでやりとりしながら地道に研究活動を継続していくことで自身のモチベーションも保つことができ、早期の復職につながったと思います。現在は病棟医長という身に余る大役も与えていただき、臨床業務も精一杯勤めています。研究も少しずつですが成果が出て、論文作成にいたっております。今後も研究支援員配置制度が、奈良県立医科大学で働く女性研究者・医師の活躍の一助となることを祈念しております。



(写真左：正嶋助教)

### 【研究支援員配置制度の利用状況について】

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより一定期間、研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師に対し、研究支援員を配置しています。現在は、医学科臨床医学教育部門教員4名、教養教育・基礎医学教育部門教員2名、看護学科教員1名の合計7名の女性研究者がこの制度を利用しています。

本学に所属する常勤の女性教員（教授、准教授、講師、助教）、診療助教及び研究助教で、以下に該当する方が支援対象となります。

- (1) 妊娠から出産までの期間の方
- (2) 子育て中で小学校6年生までの子どもを自身で主に養育している方
- (3) 要介護者・要看護者である家族を自身が主に介護・看病している方
- (4) 不妊治療中の方

制度の利用を検討されている方はお気軽に当センターまでお問い合わせください。



### Information

### 3

## 女性研究者・女子学生の皆さまへ ～受賞・発表情報をお寄せください～

当センターのホームページでは、女性研究者・女子学生の各種学会等での受賞や男女共同参画の講演を行った情報を掲載し、女性研究者・女子学生の活躍を紹介しています。掲載ページは皆さまからの情報提供に基づき作成しています。自薦・他薦を問いません。当センターまでメールやFAX等によりお知らせください。

【情報提供先】女性研究者・医師支援センター

Email : [jshien@narmed-u.ac.jp](mailto:jshien@narmed-u.ac.jp) FAX : 0744-29-9940

センター HP (女性研究者の活躍) ▶



### 【編集後記】

令和2年は新型コロナウイルスに翻弄され、職員の皆さまも不安な日々をお過ごしのことと思います。予期せぬ出来事に直面し乗り越えていくことの繰り返しが生きているということなのではないでしょうか。4月には新しい職員や学生が加わり、本学も華やかな雰囲気に包まれることを心待ちにしています。教職員と学生が自分らしく活躍できる大学をめざして、来年度も研究支援、ハラスメント防止、働き方改革、キャリア教育、ダイバーシティ推進に取り組んで参ります。

### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL : 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代)内線 : 2525  
E-mail : [jshien@narmed-u.ac.jp](mailto:jshien@narmed-u.ac.jp)

